地域支援だより

アシスト

第５号
令和６年　１月２９日　発行
天王みどり学園　地域支援部
ＴＥＬ：018-870-4611

ともに学び　ともに育つ　居住地校交流

特別支援学校に通っている児童生徒が、自分の住んでいる地域の小・中学校へ行き、学習や学校行事等に参加する居住地校交流。今年度も小学部8名7校、中学部13名11校（今後の実施予定も含む）が居住地校交流を実施しました。多様性を尊重する社会の形成において、この居住地校交流は大きな役割を果たしています。今号では、交流の実際とともに、改めて交流の意義や進め方を紹介します。

居住地校交流で、期待されること

特別支援学校の児童生徒にとって

地域の同年代の児童生徒と活動を共にすることで、新たな体験や経験から学びを得たり、人と関わる力を高めたりすることが期待できます。また、地域での人間関係を広げることは、将来の豊かな生活につながっていきます。

小・中学校の児童生徒にとって

地域の仲間として支援学校の児童生徒と関わり活動を共にする中で、互いの個性を認め、思いやりの気持ちを育むことが期待できます。また、障害に対する正しい理解を自然と深めていくことも期待できます。

交流の活動例（今年度の実践から）

【令和５年度実施小学校】
秋田市：飯島南小学校　金足西小学校　土崎小学校　男鹿市：船越小学校
潟上市：追分小学校　　五城目町：五城目小学校　三種町：琴丘小学校

体育科：「いろいろなうごき」
お友達とたくさんお話しながら動きました。

総合的な学習の時間
「みどり学園のお友達との交流会」ゲームやダンスを楽しみました。

体育科「走の運動あそび」
友達と一緒にたくさん走りました。

その他に・・・
〇特別活動「なかよし集会」　〇図画工作科「えがこう、生き物ワンダーランド」
〇総合的な学習「スマイル交流会を開こう」

【令和５年度実施中学校】
潟上市：羽城中学校、天王中学校、天王南中学校　　男鹿市：男鹿東中学校
秋田市：秋田北中学校　飯島中学校　外旭川中学校　土崎中学校　将軍野中学校
五城目町：五城目第一中学校　　井川町：井川義務教育学校

特別活動：学級活動
生徒企画のゲーム交流
「しっぽとり　ドッツボール」

道徳科：金の斧
「誠実」の意味をグループで話し合いました。

保健体育科：ボール運動
ペアになって、トスやレシーブを練習しました。

その他に・・・
〇保健体育科（ボッチャ、バドミントン、キャッチボール）〇音楽科（器楽演奏、音楽鑑賞）

居住地校交流の進め方

1　受入れについての依頼

・年度初めに、みどり学園から、各小・中学校へ、居住地校交流の受け入れについて依頼します。

2　打合せ日時の調整

・該当する学年主任や学級担任と、みどり学園の学級担任とで打合せ日時を決めます。

3　打合せ

・みどり学園の学級担任が小・中学校へ行き、当該児童生徒の実態等や交流日日程、主な活動内容等を話し合います。電話やメールなどのやり取りを含め、複数回実施する場合もあります。

4　交流

・みどり学園児童生徒は保護者が送迎し小・中学校を訪問します。担任が必ず同行します。
・交流授業は小・中学校の先生が進め、みどり学園職員は当該児童生徒の支援にあたります。

障害理解授業について

各校からの依頼に応じた障害理解授業を実施しています。授業では「障害」の言葉を用いず、一人一人の個性として説明しています。どうすればみんなが仲良く気持ちよく過ごせるかを考えるきっかけとなってくれればと考えています。

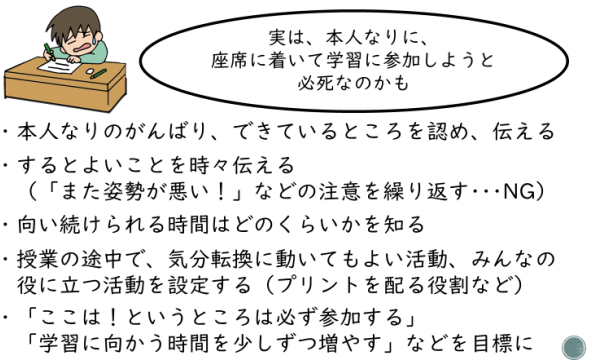
交流の事前学習として、交流児童生徒の担任が同行し、児童生徒の紹介や関わる際のポイントについて説明したり、交流での活動を体験したりすることも行っています。

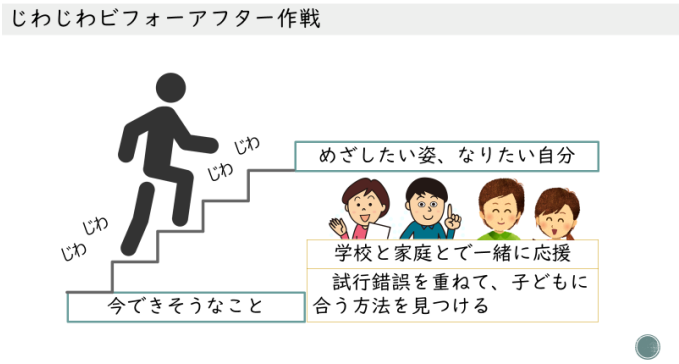
みどりアシスト研修会

「集団活動における子どもの苦手さや困難さへの対応」
～じわじわ「ビフォーアフター」作戦～

1月19日、上記をテーマに本校教諭（兼）教育専門監の小野直子先生を講師に、地域研修会を開催しました。昨年度は外部の方はオンラインでのみの参加でしたが、今年度は対面あるいはオンラインでの参加とし、校内職員等と合わせて51名の参加がありました。

センター的機能にて地域の学校等を訪問すると、集団活動への参加が難しい幼児児童生徒の相談が多く寄せられること、そしてその対応に現場の先生方は一生懸命に取り組まれているのに、思うような成果が得られないことに悩まれていることに触れ、「劇的ビフォーアフター」ではなく、「じわじわビフォーアフター」作戦でいこうという内容でした。 作戦は三つのステップからなっており、困難さの原因や背景を探るステップ1、子供が安心して活動する姿に向けた支援をするステップ2、そして、支援が必要であることを、周囲や本人が理解し実践するステップ3として挙げました。それぞれのステップの具体例を説明した後、最後には、作戦の実践に向けて「子どもの見方を変えて味方になる」ことの大切さに触れ、「おだやかに、ゆるやかに、ていねいに」成長を見取っていくことを大事にしたいと述べました。





外部から参加された方の感想

じわじわビフォーアフターのネーミングがとてもいい。支援者側に「ゆとり」があることも大事だよなと改めて思わされました。

苦手さの背景を考えたり保育士間で話し合ったりすることで、子どもが安心して園生活を送ることにつながると感じました。

子どもが今できそうなことを園と保護者で連携しながら方法を探っていきたいと思います。

集団活動に参加できない子どもの背景にあるものは何かを考えるときの見方を学びました。

＊オンラインが参加しやすかったというご意見も多数いただきました。

秋田県立支援学校天王みどり学園

TEL:018-870-4611　FAX:018-870-4612

教頭:佐川 透　教育専門監:小野 直子　地域支援部:遠藤 美和子

特別支援教育地域センター（男鹿市立船川第一小学校内）:月・水・金

TEL:0185-24-3231

特別支援教育アドバイザー〔小松 美幸〕